

国内希少野生動物種に追加する種の概要

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)
クロイワトカゲモドキ (<i>Goniurosaurus kuroiwa</i> <i>kuroiwa</i> : ゴニウロサウルス・クロイワエ・クロイワエ) 分類: トカゲ亜目 トカゲモドキ科	ウ、エ	①種の特徴: 成体の頭胴長は75~100mm。生体の虹彩は赤褐色ないし暗赤褐色。背面の地色は暗褐色ないし黒褐色で、胴の少なくとも前半部の背面に淡桃色の縦条が走る一方、成体には明瞭な横帯がない。縦条で隔てられた左右の暗色部には、多くの場合不規則な明色の小斑が見られる。主に常緑広葉樹林の自然林や回復の進んだ二次林に生息し、クモ類、昆虫類等を捕食する。 ②分布域: 沖縄県の沖縄島、古宇利島、瀬底島、屋我地島に分布。 ③個体数: 不明(少数) ④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、愛好者等による違法採取、外来種による影響(マングースによる捕食)
マダラトカゲモドキ (<i>Goniurosaurus kuroiwa</i> <i>orientalis</i> : ゴニウロサウルス・クロイワエ・オリエンタリス) 分類: トカゲ亜目 トカゲモドキ科	ウ、エ	①種の特徴: 成体の頭胴長は普通75~85mm。生体の虹彩は赤褐色ないし暗赤褐色。背面の地色は暗褐色で、胴部には桃色がかかった明色の横帯が3~4本あり、少なくとも部分的に同様の色の縦条成分がある。腹面は淡褐色で、扁平な鱗が瓦状に並ぶ。主に常緑広葉樹林の自然林や回復の進んだ二次林に生息し、クモ類、昆虫類等を捕食する。 ②分布域: 沖縄諸島の渡名喜島、渡嘉敷島、伊江島に分布。 ③個体数: 不明(ごく少数) ④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、愛好者等による違法採取
オビトカゲモドキ (<i>Goniurosaurus kuroiwa</i> <i>splendens</i> : ゴニウロサウルス・クロイワエ・スペンデンス) 分類: トカゲ亜目 トカゲモドキ科	ウ、エ	①種の特徴: 成体の頭胴長は普通65~81mm。生体の虹彩は赤褐色ないし赤味がかかった暗褐色。背面の地色は黒褐色ないし暗褐色で、胴部には淡桃色の横帯が3本ある。これらの横帯の間の暗色部には、淡色の斑紋等は見られない。腹面は淡褐色で、胸部の鱗は互いに重ならず敷石状である。主に常緑広葉樹林の自然林や回復の進んだ二次林に生息し、ミミズや昆虫類等を捕食する。 ②分布域: 鹿児島県の徳之島に分布。 ③個体数: 不明(ごく少数) ④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、愛好者等による違法採取
イヘヤトカゲモドキ (<i>Goniurosaurus kuroiwa</i> <i>toyamai</i> : ゴニウロサウルス・クロイワエ・トヤマイ) 分類: トカゲ亜目 トカゲモドキ科	ウ、エ	①種の特徴: 成体の体長は75~85mm。生体の虹彩は赤褐色ないし赤味がかかった暗褐色。背面の地色は黒色ないし暗褐色で、胴部には桃色がかかったクリーム色の横帯が3ないし4本あるが、背中部には縦条が一切見られない。胸部は一樣に扁平な鱗が瓦状に並ぶ。主に常緑広葉樹林の自然林や回復の進んだ二次林に生息し、クモ類、昆虫類等を捕食する。 ②分布域: 沖縄県の伊平屋島に分布。 ③個体数: 不明(ごく少数) ④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、愛好者等による違法採取

<p>クメトカゲモドキ (<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i> : ゴニウロサウルス・クロイワエ・ヤマスイナエ)</p> <p>分類: トカゲ亜目 トカゲモドキ科</p>	<p>ウ、エ</p>	<p>①種の特徴: 成体の頭胴長は75~85mm。虹彩は赤味がなく黄褐色であるのが最大の特徴。胴背面に4本ある横帯も黄色味を帯びたクリーム色で、幼体では黄色味も弱く白に近い。背面に縦条はなく、横帯と横帯の間には不規則な小斑がある。腹面には一様に扁平な鱗が瓦状に並ぶ。主に常緑広葉樹林の自然林や回復の進んだ二次林に生息する。</p> <p>②分布域: 沖縄県の久米島に分布。</p> <p>③個体数: 不明(ごく少数)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、愛好者等による違法採取</p>
<p>オガサワラナガタムシ (<i>Agrilus boninensis</i> : アグリルス・ボニネンシス)</p> <p>分類: 甲虫目 タムシ科</p>	<p>ウ</p>	<p>①種の特徴: 体長6~10mm、体色は緑色を帯びた唐金色であるが、全体が金属光沢を帯びた緑色の個体も知られている。前胸腹板突起は舌状、上翅は一様に銀灰色の細毛に覆われている。ムニンエノキを寄主植物としている。7~10月に出現する。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島父島列島(父島、兄島、弟島)、母島に分布。</p> <p>③個体数: 不明(少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>
<p>シラフオガサワラナガタムシ (<i>Agrilus suzuki</i> : アグリルス・スズキイ)</p> <p>分類: 甲虫目 タムシ科</p>	<p>ウ</p>	<p>①種の特徴: 体長は4.2~5.8mm。体色は緑色を帯びた唐金色、金属光沢がある。内側隆線は弧状で中央付近まで達するが消失し、側隆線とは合しない。前胸腹板突起は幅広い舌状。上翅は会合線に沿って3対計6個の銀白色毛紋を現し、その外側の側縁部は肩部から末端まで銀白色短毛で覆われる。日本産で類似の斑紋を現す種は知られていない。センダンを寄主植物とし、成虫もその葉に集まる。6~7月に出現する。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の父島列島(父島、兄島、弟島)、母島列島(母島、向島、妹島)に分布。</p> <p>③個体数: 不明(少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>
<p>オガサワラムツボシタムシ 父島列島亜種 (<i>Chrysobothris boninensis boninensis</i> : クリュソボトリス・ボニネンシス・ボニネンシス)</p> <p>分類: 甲虫目 タムシ科</p>	<p>ウ</p>	<p>①種の特徴: 体長8~11mm。同属の他の種に似るが、体はほぼ銅紫色で美しく、上翅の凹紋は大きく、金から金緑色の点で区別できる。母島亜種とは、前胸背が強く紫色を帯びて横じわ状、上翅は青藍色を帯びないことで区別できる。常緑広葉樹林(とくに湿性高木林)の自然林に生息する。成虫は6~8月に出現し、各種の広葉樹の枯れ枝に飛来する。動作は非常に素早い。幼虫の寄主植物としてムニンエノキが知られている。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の父島列島(父島、兄島、弟島)に分布。</p> <p>③個体数: 不明(少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>

<p>オガサワラムツボシタマムシ 母島亜種 (<i>Chrysobothris boninensis suzukii</i> : クリュソボトリス・ボニネンシス・スズキイ)</p> <p>分類： 甲虫目 タマムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：体長8～11mm。同属の他の種に似るが、体はほぼ銅紫色で美しく、上翅の凹紋は大きく、金から金緑色の点で区別できる。オガサワラムツボシタマムシ父島列島亜種とは、前胸背が青藍色を強く帯びて横じわを欠き、上翅も青藍色をより強く帯びる傾向があることで区別できる。常緑広葉樹林（とくに湿性高木林）の自然林に生息する。成虫は6～7月、10月に出現し、各種の広葉樹の枯れ枝に飛来する。幼虫の寄主植物としてシマシャリンバイが知られている。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の母島列島（母島、向島、妹島・姪島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食）</p>
<p>ツヤヒメマルタマムシ (<i>Kurosawaia yanoi</i> : クロサワイア・ヤノイ)</p> <p>分類： 甲虫目 タマムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：体長5～8mm、体下面は赤銅色、頭胸部は青緑色から青銅色に変化する。腹部末端部の形状が非常に特徴的である。幼虫はシャリンバイを寄主植物とし、成虫はヒメフトモモの葉に集まる。6～7月に出現する。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島鴛島、父島列島（父島、兄島、弟島）、母島列島（母島、向島、妹島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食）</p>
<p>ツマベニタマムシ父島・母島 列島亜種 (<i>Tamamushia virida virida</i> : タマムシア・ヴィリダ・ヴィリダ)</p> <p>分類： 甲虫目 タマムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：体長13～20mm、生時には黄色粉に覆われる。背面は緑色で、ときに金色あるいは青色を帯び、上翅端などは紅色。鴛島亜種とは、体が黒紫色とならないことで区別される。成虫は5～7月に出現する。幼虫はシマシャリンバイを寄主植物とし、成虫はヒメフトモモの葉に集まる。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島列島（父島、兄島、弟島）、母島列島（母島、向島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食）</p>
<p>オガサワラトビイロカミキリ (<i>Allotraeus boninensis</i> : アルトラエウス・ボニネンシス)</p> <p>分類： 甲虫目 カミキリムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：体長12.5～18.5mm。トゲヒゲトビイロカミキリ亜属に含められる。南西諸島から本州に分布する同亜属2種とは、体はほぼ暗赤黒色、触角と脚が赤褐色なことで、容易に区別できる。常緑広葉樹林の自然林に生息する。寄主植物としてコヤブニッケイが知られる。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島列島（父島、兄島、弟島）、母島に分布。</p> <p>③個体数：不明（少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食）</p>

<p>オガサワラトラカミキリ (<i>Chlorophorus boninensis</i> : クロフォルス・ボニネン スイス)</p> <p>分類： 甲虫目 カミキリムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：体長9～11mm。体の微毛の色彩が赤色を帯びることで他種と区別することができるが、類縁的にはヤエヤマトラカミキリに近い。体は太く短く、微毛の色彩は、前胸背板が濃赤色、上翅が赤黄色、腹面は黄色みが強いが、腹部は赤黄色。上翅基部後方のJ字紋の後端は肩紋および中央横帯と連続し、中央横帯は会合部で前方に伸び、J字紋としばしばつながる。成虫はおもに湿性高木林に生息する。幼虫の寄主植物としては各種の広葉樹（ギンネムなど外来種を含む）が確認される。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島列島（父島、兄島、西島、南島）、母島列島（母島、向島、姉島、姪島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食）</p>
<p>オガサワラキイロトラカミキリ (<i>Chlorophorus kobayashii</i> : クロフォルス・コバヤス イイ)</p> <p>分類： 甲虫目 カミキリムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：体長8.5～13.0mm。色彩と斑紋パターンはヤエヤマトラカミキリに似るが、体が細く、触角が長いことや、雄交尾器側片がへら型に広がるなどの特徴から区別できる。黄色の微毛に覆われ、黒色紋をもつ。前胸背板はわずかに縦長、背面中央に近接（ときに融合）した黒色大紋、その側方に小紋をもつが、すべてが連続することもある。上翅の黒色紋はヤエヤマトラカミキリとほぼ同様。触角は比較的長く、オスで上翅中央を越す。ギンネム、ヒメツバキ、ヒメシャリンバイなど各種広葉樹を寄主植物としている。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島列島（父島、兄島、弟島、東島）、母島列島（母島、向島、姪島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食）</p>
<p>オガサワラモモブトコバネカ ミキリ (<i>Merionoeda tosawai</i> : メリ オノエダ・トサワイ)</p> <p>分類： 甲虫目 カミキリムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：体長6～9mm。ヤエヤマモモブトコバネカミキリと似ており、色彩以外での区別は難しい。体は雌雄ともに暗褐色から黒色、腹部は赤褐色、腿節の柄節は黄白色。ヤエヤマモモブトコバネカミキリに比べて体は細く、とくに頭胸部が長い。おもにコヤブニッケイなどクスノキ科を寄主植物としている。成虫は4～6月に出現する。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の髯島、父島列島（父島、兄島、弟島）、母島列島（母島、向島、姪島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食）</p>

<p>フタモンアメイロカミキリ父島列島亜種 (<i>Pseudiphra bicolor</i> <i>bicolor</i>: プセウディフラ・ビコロール・ビコロール)</p> <p>分類: 甲虫目 カミキリムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴: 体長4.5~7mm。同属の他の種に似るが、全体に黄色みが強く、上翅の微毛は明瞭でビロード状、上翅は端より2/7~3/8でより暗色な紋が出現する点で区別できる。母島列島亜種とは、中・後胸は黄褐色、上翅は基部2/3までが明色、後方だけが暗色な点で分かれる。常緑広葉樹林(とくに湿性高木林)の自然林に生息する。成虫は6~7月、10月に出現し、オオバシマムラサキなどの花から採集されている。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の父島列島(父島、兄島、弟島)に分布。</p> <p>③個体数: 不明(少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>
<p>オガサワライカリモントラカミキリ (<i>Xylotrechus ogasawarensis</i>: クスユロトレクス・オガサワレンシス)</p> <p>分類: 甲虫目 カミキリムシ科</p>	ウ	<p>①種の特徴: 体長9~16mm。前胸背板は黒色。上翅は黒色、基部付近が広く赤褐色で、その赤褐色部は後方と外縁に伸張し、全体で錨型の紋をつくる。先端1/3にも赤褐色帯がある。脚は赤褐色。色彩からはムネモンアカネトラカミキリに遠縁に見えるが、形態的には極めて近い。ギンネム、ヒメツバキなど各種広葉樹を寄主植物としている。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の鴯島、父島列島(父島、兄島、弟島)、母島に分布。</p> <p>③個体数: 不明(少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>
<p>クスイキボシハナノミ (<i>Hoshihananomia kusuii</i>: ホスイハナノミア・クスイイ)</p> <p>分類: 甲虫目 ハナノミ科</p>	ウ	<p>①種の特徴: 体長6.5~8mm。上翅には発達した3対の橙黄紋を持ち、前胸背はオビハナノミ属状の紋を現す点で他種と容易に区別できる。系統的にキボシハナノミやオオキボシハナノミにやや近い。6~7月と10月に各種の花に飛来した個体が確認されている。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の父島列島(父島、兄島)、母島に分布。</p> <p>③個体数: 不明(ごく少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>
<p>キムネキボシハナノミ (<i>Hoshihananomia ochrothorax</i>: ホスイハナノミア・オクロトラクス)</p> <p>分類: 甲虫目 ハナノミ科</p>	ウ	<p>①種の特徴: 体長8.2~10.5mm。上翅には4対の光沢ある金紋を持ち、前胸背に条紋を形成しない点で同属の他種と区別できる。系統的にミツオホシハナノミに近い。常緑広葉樹林(とくに湿性高木林)の自然林に生息する。6~8月に出現し、モモタマナはじめ各種の花に飛来した個体が得られている。鴯島ではシマシャリンバイの立ち枯れへの産卵が確認されている。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の鴯島、父島列島(父島、兄島)、母島列島(母島、向島)に分布。</p> <p>③個体数: 不明(少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>

<p>オガサワラキボシハナノミ (<i>Hoshihananomia trichopalpis</i>: ホシハナノミア・トリコパルピス)</p> <p>分類: 甲虫目 ハナノミ科</p>	ウ	<p>①種の特徴: 体長9~10.5mm。上翅中央後方の側方には本属にほぼ共通な紋以外にも1対の橙黄円紋を現す。ヤエヤマキボシハナノミの系統に含まれるが、それとは前胸背と上翅の黄紋がより発達し、尾節板が短いことで区別できる。常緑広葉樹林(とくに湿性高木林)の自然林に生息する。6~7月に出現し、モモタマナなどへの訪花習性もあるが、林縁環境や林内空間の葉上に飛来した個体が得られている。コヤブニッケイへの産卵例がある。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の父島列島(父島、兄島、弟島)、母島に分布。</p> <p>③個体数: 不明(少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>
<p>オガサワラモンハナノミ (<i>Tomoxia relictata</i>: トモクシア・レリクタ)</p> <p>分類: 甲虫目 ハナノミ科</p>	ウ	<p>①種の特徴: 体長5.3~7mm。背面は黒、前胸背の黒紋は12個と多く、上翅の白紋はほぼ純白の毛で形成される。系統的にはモンハナノミにやや近い。常緑広葉樹林(とくに湿性高木林)の自然林に生息する。成虫は6~12月に現れ、林内空間の立ち枯れ木に飛来した個体などが得られている。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の父島列島(父島、兄島、弟島)、母島に分布。</p> <p>③個体数: 不明(少数、今後、グリーンアノールによる急激な生息環境の悪化が懸念)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(アカギやモクマオウによる植生変化、グリーンアノールによる捕食)</p>
<p>アニジマカタマイマイ (<i>Mandarina anijimana</i>: マンダリナ・アニジマナ)</p> <p>分類: 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴: 殻長18.0mm、殻径24.0mm程度で、やや円く、硬質、螺層はやや膨れる。体層周縁は円い。殻表はほぼ平滑。殻色は淡黄褐色で、色帯の有無に関して、変異がある。臍孔は狭く開くが、時に閉じることもある。殻口は厚く肥厚・反転する。乾性低木林の落葉下に生息する地上性種で、繁殖はおもに冬から春にかけて行われると考えられる。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の兄島に分布。</p> <p>③個体数: 不明(ごく少数)</p> <p>④減少要因: 外来種による影響(ノヤギによる植生破壊、クマネズミによる捕食)</p>
<p>コガネカタマイマイ (<i>Mandarina aureola</i>: マンダリナ・アウレオラ)</p> <p>分類: 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴: 殻径24.0mmほどで、やや腰高で周縁は円く、殻表は平滑で、光沢がある。殻色は変異に富み、黄、黄白、橙、褐色、黒褐色などの地に1~3本の色帯をめぐらす。外見はアケボノカタマイマイやヌノメカタマイマイと類似することがあるが雄性生殖器の形態から区別することができる。オガサワラビロウ、アカテツ、テリハハマボウ等が混生するやや乾燥した林内の林床に生息する。林内のうち、林床の表層を利用する地表性の生態型を示す。</p> <p>②分布域: 東京都の小笠原諸島の母島に分布。</p> <p>③個体数: 不明(ごく少数)</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響(クマネズミによる捕食、プラナリア類による影響も危惧)</p>

<p>チチジマカタマイマイ (<i>Mandarina chichijimana</i> : マンダリナ・チチジマナ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻長20.0mm、殻径24.0mm程度で、やや円く、硬質、螺塔は高く、螺層はやや膨れる。体層周縁は円い。殻表はほぼ平滑。殻色は淡黄褐色で、殻に4本の色帯をもつ。臍孔は閉じる。殻口は厚く肥厚・反転する。おもにオガサワラビロウ等が多い湿性林の林床に生息する地上生活性の種である。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島と巽島に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食、クマネズミによる捕食）</p>
<p>ヒシカタマイマイ (<i>Mandarina exoptata</i> :マン ダリナ・エクソプタタ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻長14.0mm、殻径23.0mm程度の垂菱形、薄質、螺塔は低く、螺層はわずかに膨れる。体層周縁に強い竜角をもつ。殻色は淡黄褐色で、色帯をもたない。殻表には細密な縮み状の螺状肋がある。臍孔はやや広く開く。殻口は肥厚・反転する。生息地は、雲霧帯になる高標高の湿った森林内に限られる。樹上から地上までを利用する半樹上性の生態型を示す。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の母島に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、プラナリア類による影響も危惧）</p>
<p>ヒメカタマイマイ (<i>Mandarina hahajimana</i> : マンダリナ・ハハジマナ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻長13.5mm、殻径16.0mm程度で、やや薄質、螺塔はやや低く、螺層はわずかに膨れる。体層周縁は円い。殻色は淡黄褐色から濃褐色で、さまざまな様式の色帯をもち、時にこれを欠く。殻表には極めて細かい螺状肋がある。殻表には弱い光沢がある。臍孔は狭く開くことが多いが、閉じたり、広く開いたりする個体群もある。殻口は厚く肥厚・反転する。高標高地域に多く、林内の樹上にて生活する生態型を示す。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の母島に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（クマネズミによる捕食、アカギやモクマオウによる植生変化、プラナリア類による影響も危惧）</p>
<p>フタオビカタマイマイ (<i>Mandarina hayatoi</i> :マン ダリナ・ハヤトイ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻径約20.0～24.0mm、殻長15.0～22.0mmほどで、サイズの変異に富む。黄または茶の地に2本の黒色の色帯を巻くが、色帯を欠く場合もある。扁平で小型のタイプと大型で殻長も長いタイプがあるが、遺伝的には分かれていない。ヒメカタマイマイ、オトメカタマイマイと類似するが雄性生殖器の形態から区別することができる。生息地の多くはオガサワラビロウのほかアカテツやテリハハマボウ等の広葉樹が混生する乾性林である。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の母島列島（向島、姉島、妹島、姪島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（ドブネズミによる捕食、プラナリア類による影響も危惧）</p>

<p>アナカタマイマイ (<i>Mandarina hirasei</i> : マンダ リナ・ヒラセイ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻長13.0mm、殻径21.0mm程度で、偏平、やや薄質、螺層はわずかに膨れる。体層周縁は円い。殻色は淡黄褐色から濃褐色で、色帯をもたない。殻表はほぼ平滑。殻表の光沢は弱い。臍孔は広く開く。殻口は厚く肥厚・反転する。タコノキやオガサワラビロウが生育する林内の樹上から地上までを利用する半樹上性の種である。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島と巽島に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（クマネズミによる捕食、ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食）</p>
<p>オトメカタマイマイ (<i>Mandarina kaguya</i> : マン ダリナ・カグヤ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻径約16.0～23.5mm、殻長11.5～17.0mmほどで、サイズの変異に富む。殻色の変異もさまざまで、黄、白、橙、紫、茶、黄緑の地に黒色または赤茶の色帯を巻くが、色帯を欠く場合もある。ヒメカタマイマイ、フタオビカタマイマイと類似するが雄性生殖器の形態から区別することができる。低標高の乾性林から高標高の雲霧林まで幅広く利用し、林内の樹上に生活する生態型を示す。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の母島に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（クマネズミによる捕食、プラナリア類による影響も危惧）</p>
<p>カタマイマイ (<i>Mandarina mandarina</i> : マ ンダリナ・マンダリナ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻長21.0mm、殻径28.0mm程度で、やや円く、硬質、螺塔は低く、螺層はやや膨れる。体層周縁は円い。殻表はほぼ平滑。殻に濃紫褐色2本の幅広い色帯を持ち、むしろ体層周縁に殻色の淡黄褐色の色帯を持つように見える。臍孔は閉じる。オガサワラビロウ等の樹種が豊富に生育する湿性林の林床に多く、地上性の生態型を示す。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島列島（父島、兄島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（クマネズミによる捕食、ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食）</p>
<p>アケボノカタマイマイ (<i>Mandarina polita</i> : マンダ リナ・ポリタ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻径22.0mmほどで、やや腰高なものが多く周縁は円く、殻表は平滑で、光沢がある。殻色は淡紅から紫色の地に3本の濃紫褐色の色帯を巻く。コガネカタマイマイと類似することがあるが雄性生殖器の形態から区別することができる。低標高の広葉樹を中心とした森林から高標高の雲霧林まで生息し、とくにやや湿度の高い森林に多い。林内のうち、林床の表層を利用する地表性の生態型を示す。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の母島に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（クマネズミによる捕食、プラナリア類による影響も危惧）</p>

<p>ヌノメカタマイマイ (<i>Mandarina ponderosa</i> : マンダリナ・ポンドロサ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻長19.0mm、殻径23.0mm程度で、硬質、螺塔はやや高く、臍孔は閉じる。殻口は厚く肥厚・反転する。母島北部の高標高に分布する個体群は、螺塔がやや低く、体層周縁に竜角をもち、殻表の螺状肋は明瞭である。一方、周辺属島に分布する個体群は、螺塔が高く、体層周縁は円く、殻表の螺状肋が不明瞭である。母島では高標高地域の雲霧帯に生息する。向島では雲霧帯ではないが湿性の林内に生息する。湿性林の林床、その中でも落葉層の深層部を利用する地中性の生態型を示す。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の母島列島（母島、向島、姉島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（アカギやモクマオウによる植生変化、プラナリア類による影響も危惧）</p>
<p>キノボリカタマイマイ (<i>Mandarina suenoae</i> : マンダリナ・スエノアエ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻長16.0mm、殻径20.0mm程度で、円錐形、やや薄質、螺層はわずかに膨れる。体層周縁は鈍く角ばる。殻表は平滑。殻色はオリーブ色で、表面に強い光沢をもつ。通常色帯を持たないが、時に有する。臍孔は狭く開く。殻口は厚く肥厚・反転する。オガサワラビロウ等が豊富に生育する湿性林の樹上に生息する。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島列島（父島、兄島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（クマネズミによる捕食、ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食）</p>
<p>コハクアナカタマイマイ (<i>Mandarina tomiyamai</i> : マンダリナ・トミヤマイ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻径20.0～23.0mm、殻長13.0～16.0mmの偏平な茶色の殻で、色帯を欠く。殻の形はアナカタマイマイと酷似するが、より殻表は滑らかである。雄性生殖器の形態から識別することができる。乾性林等の林内に生息し、樹上から地上までを広く利用する半樹上性の生態型を示す。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の父島列島（父島、兄島）に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（クマネズミによる捕食、ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食）</p>
<p>ミスジカタマイマイ (<i>Mandarina trifasciata</i> : マンダリナ・トリファスキアタ)</p> <p>分類： 柄眼目 ナンバンマイマイ科</p>	ウ	<p>①種の特徴：殻長22.0mm、殻径26.0mm程度で、やや円く、硬質、螺層はやや膨れる。体層周縁は円い。殻表はほぼ平滑。殻色は淡黄褐色の地に細い3本の色帯を持つことが多い。表面の光沢は弱い。臍孔は通常閉じるが、狭く開く個体もある。殻口は厚く肥厚・反転する。湿性の森林の林床に生息する地上性の種である。</p> <p>②分布域：東京都の小笠原諸島の聳島と媒島に分布。</p> <p>③個体数：不明（ごく少数）</p> <p>④減少要因：外来種による影響（ノヤギによる植生破壊、プラナリア類による影響も危惧）</p>

<p>ナガミカズラ (<i>Aeschynanthus acuminatus</i> : アエスキュナントゥス・アクミナトゥス)</p> <p>分類: イワタバコ科 ナガミカズラ属</p>	<p>ア</p>	<p>①種の特徴: 樹石上に着生する多年生藤本。高地の樹幹や岩上に生育する。全株無毛。葉は対生、多肉質、楕円形、長さ6~10cm、幅1.5~3.5mm、全縁、鋭尖頭、漸尖脚、葉柄は長さ5mm。腋生の散房花序は有柄、1~2花、包(花序の基部にある苞)は2個、対生、卵形、萼は5全裂、裂片は長楕円形で長さ4mm、反曲し宿存性、花冠は鐘形、黄白色を帯びる、長さ15~20mm、上唇は2裂、裂片は上向、下唇は3裂し多少反曲、雄蕊は5、2対は花冠より長く、花糸は糸状で上端に腺毛を散生し、葯はゆ合。高地の樹幹や岩上に生育する。</p> <p>②分布域: 沖縄県の八重山諸島に分布。</p> <p>③個体数: 数十個体以下と推測</p> <p>④減少要因: 産地極限、愛好家等による採取</p>
<p>ヒメヨウラクヒバ (<i>Lycopodium salvinoides</i> : リュコポディウム・サルヴィニオイデス)</p> <p>分類: ヒカゲノカズラ科 ヒカゲノカズラ属</p>	<p>ア</p>	<p>①種の特徴: 常緑の草本である。茎は基部で1~数回叉状に分岐して叢生し、下垂する枝も叉状分岐し、長さ数十cmとなる。葉は開出してつき、緑色から黄緑色、革質、広卵形。長さは5~10mm、幅3~5mm、全縁で短い柄がつく。孢子嚢穂ははっきりしており、枝の先端で叉状に1~数回分岐し、長さは15cmに達することがある。孢子葉は小さく、長さ約1mmで卵形。茎に圧着してつく。空中湿度の高い山地林内の樹幹に着生する。下垂してつく。</p> <p>②分布域: 沖縄県の八重山諸島に分布。</p> <p>③個体数: 数十個体以下と推測</p> <p>④減少要因: 開発等に伴う生育地の減少、産地極限、愛好家等による採取</p>
<p>タカオオオスズムシラン (<i>Cryptostylis taiwaniana</i> : クリュプトステュリス・タイワニアナ)</p> <p>分類: ラン科 オオスズムシラン属</p>	<p>ア</p>	<p>①種の特徴: 常緑の多年草。総状花序は頂生し、約20花をつける。花は径4cm、萼片と花弁は線形、紫緑色を帯び、萼片は長さ約1.8cm、花弁は長さ1.1cm、唇弁は長さ約2.5cm、楕円状菱形、橙色で、全面に赤褐色の細点が入る。茎は花序を含めて長さ45cmになる。葉は茎に1~2葉つき、卵形~卵状楕円形、長さ15cm、長さ10cmの葉柄があり、葉上面に暗緑色の斑点がある。根はやや肥厚する。山地の自然林の陰湿な林床に生える。</p> <p>②分布域: 沖縄県の八重山諸島に分布。</p> <p>③個体数: 数十個体以下と推測</p> <p>④減少要因: 産地極限、愛好家等による採取</p>
<p>イリオモテトンボソウ (<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i> : プラタンテラ・ステノグロサ亜種イリオモテンスイス)</p> <p>分類: ラン科 ツレサギソウ属</p>	<p>ア</p>	<p>①種の特徴: 小型の常緑の多年草。花期は3~5月。花は総状花序が頂生し、疎らに5~10花をつける。花は淡緑色、萼片と花弁は長さ4~6mm、唇弁は長さ5~7mm、基部に長さ11mmの距がある。茎は花序を含めて長さ20cmになる。葉は茎の基部に2~4葉をつけ、卵形、網目状の脈があり、長さ3~7cm。根は地中に紡錘形の塊根がある。水辺の岩壁や露岩などの立地に地生する。</p> <p>②分布域: 沖縄県の八重山諸島に分布。</p> <p>③個体数: 数十個体以下と推測</p> <p>④減少要因: 産地極限、愛好家等による採取</p>

<p>ミソボシラン (<i>Vrydagzynea nuda</i> : ヴリュダグズユネア・ヌダ)</p> <p>分類： ラン科 ミソボシラン属</p>	<p>ア</p>	<p>①種の特徴：小形の常緑の多年草。茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ15～20cm、3～11葉を疎らに互生する。葉は卵状楕円形、長さ25～50mm。総状花序は頂生し、6～12花をつける。花はほとんど開かず、黄緑色、わずかに褐色を帯び、萼片の先端は白色、萼片は長さ6mm、背萼片は長楕円状卵形、側萼片は広披針形、花弁は長さ4.5mm、長卵形、唇弁は長さ3.5cm、倒卵状半円形、基部に長さ4.5mmの距があり、距の中に柄がある球形の突起が1対ある。高地の自然林の陰湿な林床に生える。</p> <p>②分布域：沖縄県の八重山諸島に分布。</p> <p>③個体数：数十個体から数百個体と推測</p> <p>④減少要因：開発等に伴う生育地の減少、愛好家等による採取</p>
<p>リュウキュウキジノオ (<i>Plagiogyria koidzumii</i> : プラギオギュリア・コイドズミイ)</p> <p>分類： キジノオシダ科 キジノオシダ属</p>	<p>ア</p>	<p>①種の特徴：岩壁に生える常緑のシダ。根茎は数センチメートル水平に伸び、先端に葉を叢生する。栄養葉は葉柄が長さ10～25 cm、葉身は長さ15～30cmで、幅は広いところで約10cm、側羽片は上部でしだいに小さくなり、頂羽片ははっきりしない。羽片は広披針形、大きいものは長さ7cm、幅1.2cm、基部はくさび形で、下側の方がやや広い。上部の小さい羽片が基部で中軸に流れ込むほかは有柄、辺縁は基部を除いてははっきりした鋸歯縁である。孢子葉は栄養葉の2/3ほどの高さで、羽片は有柄。近似種のおオキジノオとは、頂羽片が明確ではないが、羽片の辺縁がはっきりした鋸歯縁であることで区別できる。また、孢子葉が栄養葉より高くないことで区別できる。山地林内の岩壁や崖に生える。</p> <p>②分布域：沖縄県の八重山諸島に分布。</p> <p>③個体数：自生地は点在し、個体数はごく少数。</p> <p>④減少要因：産地極限、愛好家等による採取</p>

※選定要件について

○希少野生動植物種保存基本方針(平成4年総理府告示第24号)(抄)

第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項

1 国内希少野生動植物種

(1)国内希少野生動植物種については、その本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種(亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。)で、以下のいずれかに該当するものを選定する。

- ア その存続に支障を来す程度に個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつあり、その存続に支障を来す事情がある種
- イ 全国の分布域の相当部分で生息地又は生育地(以下「生息地等」という。)が消滅しつつあることにより、その存続に支障を来す事情がある種
- ウ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化により、その存続に支障を来す事情がある種
- エ 分布域が限定されており、かつ、生息地等における過度の捕獲又は採取により、その存続に支障を来す事情がある種